

国語 I (現代文) 1年生

—— 聞き書きを発表する 「祖父母の戦争体験」 ——

渡 辺 康 英

授業の概要と主旨

随想「私の八月十五日」、表現「聞き書きを書く」(第一学習社『新訂国語 I・現代文表現編』)とを関連づけて、祖父母の戦争体験の聞き書きを発表させた。「伝え合う力」「情報の収集・活用」を意識した上で授業を構成した。「聞き書きを書く」だけでも表現活動としての意義はあるが、テーマが戦争体験ということもあり、生徒個々の活動を全体で共有させたいので、発表によってお互いの思いの共有を目指した。

夏期休業中に祖父母に戦争体験を聞きまとめておくことを一学期末に指示。ただし、生徒によっては話を聞くことができないことも配慮し、身近な年配の方から・ご両親は祖父母からどのように聞いたか、でもよいとした。二学期に聞き書きの主な内容を集約し、話題ごとにグループを作った。個別での発表も考えられるが、「食糧不足」「空襲」「疎開」「勤労働員」「戦地でのこと」など多くなるテーマが繰り返されるよりもグループ化することによって情報の総合整理が行われることを期待した。

グループごとにお互いが聞いたことの情報交換がなされ、疑問点などは図書館やインターネットで資料収集が行われた。インターネットから検索される資料価値は多岐である。資料の選別能力が必要となる。共同作業にしたので、資料を複数の目で検討できたメリットもあった。

授業の実施結果と反省

発表にあたったグループは多少緊張していたものの、なかなか堂々とした発表を行っていた。祖父母の聞き書きそのものの朗読を中心に据えた発表、聞き書きを元にして自分たちで調べたことの発表などさまざまであったが、戦争体験世代の方々の伝えようという心が活きたものであった。指導側としてはもっと見やすい資料が作れたのではないかと、もっと発表の構成を工夫できたのではないかと、ともう少し助力したかったという思いがあった。

評価においては、発表者の話し方・資料の効果を意識した上で戦争体験世代の方々の心が伝わったかどうか、を相互評価させ、同時に指導側でも評価を行い、総合した評価を行った。しかし、生徒の相互評価には素材のインパクトが影響することが少なくない。「戦地での生々しい経験」のほうが「田舎でのどかな戦時中」よりも高い評価になってしまいがちなのである。評価の仕方についてももう少し指導すべきであった。また観点についても再考する必要があるだろう。

研究協議

平和学習的なものとして有意義であるが、戦争体験の聞き書きを行うことができるのはあとわずかであろう。この先、替わるものがあるだろうか、という声があったが、ご指摘の通りで難題である。生徒が発表まで行いたいと思うような聞き書きのテーマはあるのだろうか。模索せねばなるまい。そのほか、総合学習とのかかわり、修学旅行と関連づけた学習などについて意見交換がなされた。